研究室紹介

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫研究室

2002年（平成14年）機構改革で，県内3箇所（尾張，西三河，東三河）にあった病害虫防除所を農業総合試験場（以下農総試）に集め，病害虫研究部病害虫防除室（病害虫防除所）とした。その際に，農総試内で作物研究所や園芸研究所等，各研究所に分散していた病害虫関係の研究室を集め，現在の病害虫研究室が設立された。設立した当初は上述2室で病害虫部を構成していたが，病害虫部は1年のみの存在で，翌年からは2室とも他4研究室からなる環境基盤研究部に編入され，現在に至っている。現在は研究員6名（写真）で研究に携わっている。

研究内容

他都道府県と同様，主要な農作物で問題となる病害虫の生態や防除対策，天敵を利用した総合防除や新たに問題となった病害虫の試験研究を行っている。

最近の研究では，コムギ主力品種が‘きぬあかり’に変わったことにより，新たに問題となったコムギ赤さび病の防除対策を研究して多発条件の解明や対応策を確立した。

全国的には生産量の少ない作物（いわゆるマイナー作物）であるが，愛知県では主要な農作物であるシソ，フキ，イチジク等（いずれも産出額で全国順位1位）で問題となる病害虫の試験研究を実施し，近年ではシソモザイク病の防除対策として，愛知県版シソサビダニ・シソモザイク病防除マニュアル（農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「シソサビダニが引き起こすオオバのモザイク病およびさび症の防除体系確立」（課題番号27001C））を作成した。

天敵を利用した総合防除では，全国シェア2位であるカーネーションの害虫に対するカブリダニ類を利用した防除技術を研究中である。

新たに問題となった病害虫として，近年被害が再燃し，ダイズ等にも被害を及ぼしているシロイチモジヨトウの発生状況や防除対策に取り組んでいる。

また，病害虫防除室が中心となるが，先述の3作物に加え，つまもの類（食用ぎく等），バジル等のハーブ類や食用花類等，マイナー作物の農薬登録試験なども実施している。

最近の話題の研究では，AI関係の研究（戦略的プロジェクト研究推進事業のAIを活用した病害虫診断技術の開発）にも参画しキュウリの病害虫診断の課題に取り組んでいる。

他県ではあまり例を見ないことと思うが，種々の経緯もあり，2015年から鳥獣害被害防止対策の研究も当研究室で実施することとなった。共同研究により，イノシシの捕獲檻（商品名おりべえ）や捕獲補助具（商品名からまる棒）等を開発し一部で特許も取得している。現在は，カラスの被害防止対策（ドローンによる追い払い等）などを研究をしている。

最後に，あいち病害虫情報（https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html 病害虫防除室ホームページ）を紹介する。発生予察情報だけでなく，病害虫図鑑，防除の手引き，各種防除資料（しってとくとくシリーズなど）記載している。一度お立ち寄りください。

（病害虫研究室　松崎聖史）

〒480-1193　愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1
TEL　0561-62-0085（内線472）

植物防疫